

第5期第4回箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会 会議録

- 1 会議名 第5期第4回箕面市水道事業及び公共下水道事業運営審議会
- 2 日時 平成27年(2015年)11月4日(水)午後3時～4時
- 3 場所 箕面市消防本部 3階 研修室
- 4 出席者
 - (1) 委員
稲垣(千秋)委員、岩下委員、大西委員、笠原委員、陳委員、照屋委員、
中堀委員、三上委員、八木委員、吉田委員
 - (2) 箕面市
出水上下水道企業管理者、武藤上下水道局長、川添副部長、桃山副理事、
佐多副理事兼浄水室長、井口経営企画室長、村上水道工務室長、石橋下水道室長、
牧野経営企画室財務グループ長
 - (事務局) 上下水道局経営企画室
羽田総務グループ長、東本事務職員
- 5 傍聴人の数
なし

6 議事【会議要旨】

(会長が議事進行)

案件(1) 箕面市下水道使用料の値下げのあり方について

委員(会長)

経費回収率の引き下げ幅を3%から4.5%までの範囲で料金引き下げを行う趣旨で諮問を受けた。前回の議論をふまえて引き続き審議を行う。

箕面市

前回の審議会以降に委員から質問・指摘を受けたことについて、3点補足説明をしておきたい。

①更新費用の内訳について

使用料でまかなうべき更新費用は雨水費用は含まず汚水費用のみであると

いうこと。

②改修工事の実施方法について

長寿命化により管路が全部116年もつという意味ではなく、法定耐用年数の到来する前の45年後、それから、63年後、75年後、88年後にカメラ調査を行い、点検と改修の必要な箇所については、改修を行い、88年後に78%を改修するというもの。残りの22%については116年後までに改修を要するものと推計していること。

③更新費用の財源確保と耐用年数について

管路の耐用年数50年と設定すると、更新費用を捻出するのは確かに厳しいが、管路が何年もてば更新費用の確保が可能かを試算してみた。その結果、次回の管路更新の際に、国庫補助金が得られなくても、管路が70年もてば更新費用の確保が可能という結果となった。さらに経費回収率4ポイント程度の値下げをしても管路が77年もてば可能である。管路の耐用年数については、国土交通省の文献でも83年から93年という記述があるため、77年もつのは実現可能な数字と考えている。

経費回収率4.0%引き下げても将来的な更新費用の確保は可能であると考えているが、各委員の意見を真摯に受け止め、今後もしっかり結果の点検をし、財政収支に与える影響を丁寧に見ていく必要があると考えている。

委員

50年先のことまでわかりづらく、不安もあるが、その頃には科学が進み、新しいシステムができる等、水道・下水道の使い方なども変わり発展しているのではないかと考えている。

委員

管路の更新の工法はどうしているのか。50年前の管を具体的にどう更新していくのか。

箕面市

ヒューム管(現在の)の中にチューブ状の新しい管を入れていくという方法で補修をしている。2重の管があるイメージである。新品と同様の状態になり、そこから50年もつということである。

箕面市

箕面は昭和42年(1967年)に下水管を入れ始め、ちょうど50年になる。一番古い桜井排水区でカメラ調査を行った結果、12%が健全度が悪いという結果がでたため、その箇所は今後5年の間に改修していくが、88%はまだもつという状況である。

箕面市

(会議資料に基づき説明)

前回の審議会では経費回収率4.5%での試算であったが、今回は経費回収率4%程度引き下げた場合を想定した。前回の委員のご意見を受け、前回の①から③までの3つの考え方に、今回は1つ追加し、4つ目のパターンを加えてそれぞれシミュレーションを作成した。

試算パターン①は基本料金のみ月額76円(税抜)引き下げの場合、試算パターン②は従量料金のみ各ランクで月額4円(税抜)引き下げの場合、試算パターン③とパターン④は基本料金・従量料金ともに引き下げの場合で、③の内容は基本料金の月額25円(税抜)引き下げと従量料金を各ランク月額3円(税抜)引き下げるもので、④の内容は基本料金の月額52円(税抜)値下げと従量料金を20^mまでの各ランク月額2円(税抜)値下げ21^mからの各ランク1円(税抜)を引き下げるものである。

なお、③に対して④は構成比の大きいところを手厚く引き下げようと試みたものである。

具体的には、箕面市の平均世帯人数は、2.8~2.9人程度で、箕面市のデータではないが、平成24年度東京都水道局調査のデータによると世帯人員3人の1か月あたりの平均的使用水量は20.8^mとなっている。箕面市の水量別の構成比からみても汚水量20^mまでの使用者が約7割を占めている。

③と④を比較すると、1か月28^mを超える使用者にとっては、③より④の方が高くなり、28^m以下だと③より④の方が安くなってくる。

委員

下水使用量が減少傾向にあるのであれば、③より④の方が構成比が大きくなり、恩恵を受ける世帯が多くなると思われる。

委員(会長)

他に意見はないか。

委員

北摂7市の下水道使用料の比較について、近隣市より箕面市は使用料が安く自慢できると思っていた。

箕面市

北摂7市で概ね3位から5位で真ん中かその少し上かと思う。

委員

経営的には料金が安いから優れているとは限らず、料金の安さの順位は優れている順位とはならない、研究者の立場での考え方であるが、経営努力もしておら

れ、妥当な計算ではないか。

委員（会長）

試算パターン④の方向で答申をまとめていくということによいか。

今後、答申ということで、事務局で文言の整理を行ったうえで市長に答申をする方向で進めてよいか。

委員

異議なし

案件（２）その他

事務局（説明）

平成２５年度及び平成２６年度の経営改革プランの評価を前年度と同様、審議会の中の評価委員会に依頼したい。

学識経験者の先生がたに評価書のまとめをお願いすることを報告する。

委員

異議なし